

首相と大臣 答弁違う

論点 散らばったまま

安全保障法制

安全保障関連法案を審議した参

院特別委員会が17日、法案採決前に野党が提出した鴻池祥肇委員長に対する不信任動議について、民主党政の福山哲郎氏が趣旨説明をした。審議の最終盤に、法案の問題点を約45分にわたり問いかけた。

「政府が説明すればするほど、反対の声が広がり、(安倍晋三)首相は国民に理解をもちょうことに失敗した」。福山氏は、審議の過程では「こぼれを見せた政権側の答弁を批判。」「くしくも衆院で111回、参院も同じ111回の審議が中断した」と指摘し、「大臣の答弁が二転三転し、首相と大臣の答弁が異なった」と述べた。

具体例として挙げたのが、首相が集団的自衛権行使の象徴的な例として強調していた「中東・ホルムズ海峡の機雷除去」だった。14日の参院特別委になって、首相が「現実問題として想定していない」とそれまでの答弁を一変させたことに、福山氏は「一体どれが本意なのか」と訴えた。



民主・福山氏が指摘

首相が昨年7月の閣議決定でパネルを持ち出して説明した「日本人を乗せた米艦の防護」の必要性にも、矛先を向けた。首相が今月11日の特別委で「日本人が乗っていない船を守ることもあり得る」と答弁したことを、福山氏は「どっちやねん。何を守るのか」と批判。「こういった答弁を放置したままでは、海外に出る自衛隊員が混乱するのは自明だ」と語った。

集団的自衛権行使の要件となる「存立危機事態」の際、他国軍を後方支援する自衛隊員の安全確保の規定が法案に盛り込まれていない点にも言及。「首相は、後方支援では(安全確保策が)すべて盛

鴻池祥肇委員長の不信任動議に賛成の意見を述べる民主党政の福山哲郎参院議員。17日午後1時18分、国会内、岩下毅撮影

り込まれたと言ったが、すべては盛り込まれていなかった」とした。政府が法整備を見送り、運用改定にとどめたグレーゾン事態(準有事)の対応をめぐっては、民主と維新の党が共同で議員提案した「領域警備法案」について、「まだ1時間も審議されていない」とし、国会運営への不満を述べた。

憲法学者らに指摘され、野党も再三追及してきた法案の「違憲性」にも言及。政府が集団的自衛権の行使を認めた閣議決定の根拠に、結論部分で行使を禁じた1972年の政府見解を挙げたことについて「根拠になり得ないのは明らかだ」と語気を強めた。

福山氏は、衆参で200時間超に達した審議をこう振り返った。「論点は散らばったまま、答弁は異なりました。何も収斂していない」

(二階堂勇)